



# 口曜文苑

## ◎歌壇

◎秋の來る日 まさみ生

眞白なる草花あまた咲き満てる  
淋しき野に口笛を吹く  
えんぐに吹きくる秋のいぶきにて  
木の葉のそよ音のさびしき  
月の夜のあかるき窓にひとりより  
冷たき土をちつと見守る  
夕風の我がよる窓に訪れて  
秋は來るとつぐるが如し  
虫のなく草葉の上に身を投げて  
さびしく見つむ星の光るを  
秋風に涙もかるくさそはれて  
さびしくさよよう丘の草原  
さびしくさよよう丘の草原  
うえた俺達の眼は黒パンの一片か  
何よりも強く光る  
今日も雨だ チェツゴウしたら  
明日のパンが得られる  
秋風が吹いてやがては冬が來る  
着物と云ふ心配が一つ増して來た  
小言を言ひながらも縁がなくてはならない  
つまらない浮世が厭になつた  
つまらぬ浮世が厭になつた

◎友は逝けり 小野瀬静子  
胸を病みて失せりとさし我が友の  
在せし頃を思ひ出づる日  
おとなしくいとおとなしく母に  
したがひ居たる友なりしかな  
夕ざれば日課の如くハモニカを  
二階のまごに吹いて居たれど  
母の胸に抱かれて有らん母の胸に  
蟲なく夜半の遠き墓原

◎詩叢

寂星  
己がさびしき思ひをば  
彼方の空に  
去りませる  
いとさびしき友に  
つたえきよ  
ねむるちまた  
鐵詩同人  
バスが通り過ると

浪にたわむれ  
またあそぶ  
眞白き鳥よ  
かもめ鳥よ  
心あるなら

表は兩び静やくに歸つた  
シーンとして  
何の音もない……  
電燈の光があわく我が姿  
を照らし出して居る  
なんとなくさびしい  
胸がこみ上つて來て  
獨り目に涙が出る  
なせだらう？  
夜の精が胸に訴へるのか  
窓越しに星を見る  
星までが  
悲しく思はれる  
安摩の笛が静かな街を  
流れて……  
闇に吹こまれた  
◎夕暮れの譜 正美  
太陽は最後のりん光を放  
つて  
山の先端に影をひそめた  
森に林に夕もやが浮んで  
黒曜石の空から  
ほの白い星が瞬く  
野中の停車場の  
青いシグナルが  
樹間にともつて居る  
彼は一本の立木の様に  
立つて  
よろ／＼と動いた  
うれい／＼  
なげきに  
彼の頭は困亂してゐる  
シット彼は星を、空を  
見入る様にみつめて  
路上へごとつと倒れた  
暗黒は悪魔の様に  
彼の總身を抱擁したが  
ミイラの様に  
動かなくなつた  
◎濁流狂歌  
腐りかゝつたトタン屋根  
蒼きかへられた瓦屋根  
それから草屋根木羽屋根  
それ等のつ邊を  
たゞきつて  
雨水は結合への進行をつ  
ゞける  
そして  
濁流結合の一分子となる  
のだ  
(二)  
ほこりで汚れた芋の葉を  
裏山の日蔭に咲いた  
名花草を  
あらゆる木を  
あらゆる葉を  
洗い浄めて慰めて  
雨水は結合への  
進行を續ける  
そして濁流結合への一分  
子となるのだ  
(三)  
日光の直射にテラ／＼  
光る屋根  
洗はれて頭をむき出した  
道路の砂利  
根本をしめらされて  
生氣づいた草  
それは濁流結合の  
段階として  
人間の視野の前に  
残された  
美しき雨後の情景だ  
(四)  
強力さを以つて  
濁流は渦く  
あらゆるものを  
破壊すべく  
あらゆる醜さを  
清浄にすべく  
此の偉大さを眺めろ  
人間は  
悲嘆と驚がくの涙を流す

濁流は更に渦く  
(五)  
あらゆる美しさを呑む  
濁流は唄ふ  
土堤に立つた  
人間の姿が一つ  
深淵の口を眺める  
そいつは慰めがないと  
云ふ事だ  
空は引形に曲つて居る  
そいつは幸福がないと  
云ふ事だ  
森は黒く茂つてゐる  
そいつは侮辱と嘲笑だ  
暗黒がこつそりと  
訪れる  
そいつは愛がない事だ  
畜生こんな馬鹿げた  
黒倒を  
創作『ヒゲ先生』記事の都  
合により本日休載  
かしこいはずの人間が  
點つて開けるか  
なにそれが  
眞理だつて……  
それなら一体誰が幸福な  
んだ  
あゝ  
濁流は更に唄ふ

外科一般 (入院隨意)  
内臓外科専門  
花柳病科  
平町六丁目(橋際)

木村科外醫院  
電話三〇九番

有聲座の割引券あり  
白銀町 丸昇軒  
電話四三九番

撮影最新の光探用藝術的  
……すまし致製調を真寫……  
門專像省  
館真寫島中  
……てに法光探の特獨館弊は影撮間夜  
すまりあり變と影撮間畫……

2×9—3×2×3  
タ マ チ  
フ

世界婦人藥王  
責任無効返金  
BISHINGAN  
子宮美神丸  
此の有名な美神丸を、夫婦仲のよくなる美神丸  
を數ヶ年に亘る悪性の子宮病に悩む人を研究  
臺として發明した理想的藥劑  
主婦之友、婦人俱樂部、婦女界、婦人世界等有  
名四大雜誌に効果が發表になつてゐります  
定價一週分四十錢、十週分參圓五拾錢  
平町古鍛冶町(橋際下)

### 合着服 新荷着

平二丁目  
あかや洋服店  
電話二〇五番

### 忠實な番頭

取次迅速 取引正確  
マルトモ柴田書店  
平町四丁目  
電話二三四番

### 大谷時計病院

平町三丁目  
電話一九番

### 阿康藥店

地方代理店  
電話四四番